

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100022		
法人名	岩手県高齢者福祉生活協同組合		
事業所名	岩手高齢協 ほっともとみや 1階		
所在地	〒020-0866 岩手県盛岡市本宮6丁目14-12		
自己評価作成日	平成29年1月13日	評価結果市町村受理日	平成29年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&Ji_gvosvoQd=0390100022-00&Pr_efQd=03&Ver_si_onQd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本宮通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成29年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・スローガンとして掲げている「寝たきりにしない、させない」の実践している。 ・利用者の体調を見ながら、無理のない範囲でみんなで過ごせる場の提供をしている。 ・行事の際、利用者の家族、外部への呼びかけを行ない、家族と利用者が一緒に楽しめる場を提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>この本宮地区で和・輪・話を大切に、ホームは利用者の家であることを理念としてケアにあたっており、職員間のコミュニケーションも良く、ホーム内は明るい雰囲気である。本四町内会に加入し、各種の町内行事に参加し、特に町内の避難訓練には利用者も含め参加しており、広報「和・笑・輪通信」は町内に回覧してホームの情報提供をするとともに、理解を得ている。地域とは双方向での関係で連携を強めており、特に防災への取り組みは特記でき、本宮四丁目町内会のほっともとみやへの協力のあり方は一つのモデルである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をリビングに掲示している。全体ミーティングや、通信にも載せている。寝たきりにならない活動を取り入れ、活発なレクリエーション、離床を進めている。	理念は開設当時の職員の話し合いによって決めたもので、毎回の広報の冒頭に掲げるとともに、リビングに掲示し、毎月の会議資料にも必ず掲げて、理念を確認しつつ、職員間で共有し利用者の支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	南昌子供さんさに来ていただいたり、芋の子会、敬老会に地域の方を招き、利用者地域の方がつながる会を開催している。また地域が開催している花壇作りやサロンに職員が参加している。回覧板もまわしてもらい地域と交流している。	本四町内会に加入し、地域行事に参加している。例えば、地域清掃、地域花だんの花の植え替え、地域避難訓練等への参加、また、ホームの広報「和・笑・輪通信」を町内に回覧している。地域とホームの双方向からの働きかけによる連携に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の福祉の仕事体験や、高校生の就業体験など実習の場を提供し、認知症高齢者への理解を伝えている。行事に参加してもらい、利用者と一緒に過ごしていただく機会になっている。通信を回覧して、利用者の活動を地域の方にも理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の行事、ホームの行事にお互い支えあい、情報交換をする事ができている。	委員には、本四町内会長・大宮町内会長・民生児童委員(3名)・家族(交替で)・市担当課職員などから構成され、会議では、ホームの状況報告を利用者、行事、研修、その他について行い、それに対する質疑と意見・提言を受けている。最近、市役所の委員の出席が芳しくないため、委員から市のほうに話していただくようお願いしている。会議は2ヶ月ごとに、年6回開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への出席をお願いしている。また運営推進会議の議事録を毎回、高齢福祉課へ提出している。	運営推進会議の議事録を届けたり、事務手続きなどで直接市役所に赴いて指導、助言を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての冊子やマニュアルを読むようにしている。日中は玄関に施錠していない。ベッドはいつも出入りができるように、柵で囲わないようにしている。会議内で正しく理解できるように情報を共有している。	「身体拘束ゼロを目指して」等々を用い、職員の意識を高めることに努めており、利用者を抑制するような言動はとらないことに心がけている。事故防止のため、必要な利用者については、了解を得て感知センサーを設置しており、1階2名、2階1名の利用者が使用している。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 岩手高齢協ほっともとみや(1階ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の事件がニュースで報道されるたび、会議内で事件について、虐待について、利用者を尊重していく事への心がけについて話し合いを行なっている。権利擁護の研修に参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の申請をしている方がおり、勉強中です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、改定時に重要事項説明書を作成し、納得の上で、サービスを利用してもらっている。不明な点について、質問があった時には、担当者へつなげている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見を頂いた時には、所長へつなげている。忘年会の開催場所は、敬老会で家族に意見を求めて、決定した。	利用者、家族の意見は、可能なものについては反映している。今まで、ホームの敬老会や忘年会は、温泉場を会場としていたが、ホームで実施するようにしたこと、また、階段脇の写真の展示期間が長くなっているので変更した方が良いなど、家族からの意見によって実現している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティング、総代会、カンファレンスで意見を聞く機会を設け、理事会、三役ミーティング、福祉部会、総務部会で意見を反映している。	意見の集約方法は、自己評価のとおりであるが、集約したものは、可能な限り反映している。最近の例では、火傷防止のため暖房具に覆いをする事が職員から提案され、職員作製の覆いがかけられているのを実見した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格、就労年数、勤務態度などから、個々の職員にあわせて、昇給の検討が行われている。介護福祉士の資格を習得した職員は、介護福祉士手当がついた(非常勤)。また4月に全体的な昇給があった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に2、3件の研修、講習会に参加している。ほぼ全員の職員が参加している。報告書は回覧し、全職員が目を通している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会の交換研修の受け入れをした。交流のほか、介護、記録などの情報交換もすることができた。刺激になっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に笑顔を心掛け、相手に話しかけてもらえる雰囲気作りに努力している。自ら表現しにくい方からは、仕草、表情を汲み取るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に本人の支援について、家族と相談し、家族の不安なども相談を受けている。利用者様と家族間の連絡や、伝言を支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人のADLに合わせて、食事形態の工夫や福祉用具の導入、適度な介護サービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の興味のあるものを、家事、活動、レクリエーションなど一緒に行なえるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	関係を大切にしながら、急変時にはすぐに家族へ連絡している。手紙や面会の時に生活など、本人の様子を報告し、支え合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会、家族の面会や外出・外泊を支えている。主治医も継続していける。	個々の利用者に関しては、兄弟、友達等知人との面会、手紙のやり取りへの支援、家族との温泉行き支援など、ケースに応じた支援をしている。また、ホーム全体として、花見などのみんなでドライブする機会に、利用者の馴染みの場所を通るなど心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が交流でき、支え合っている。みんなでレクや家事活動をするようにしている。協力し合っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が亡くなった後も、家族が犬を連れて遊びに来てくれる。退所された利用者の家族が事業所の10周年を記念して会に参加して下さったり、野菜を寄付して下さいたりして関係が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスや本人との日々の会話から、思い、意向を聞き、畑作業や草取りに関われるように支援した。また本人本位とは考えていますが、周りとの関係において、なかなかうまくいかない時もある。	職員は利用者の日常に寄り添い、その中で、利用者の言動から思いや意向を把握するように努めており、感じ取れた事をチャートに入れたり、申し送りノートに記入したものをしながら職員間で共有しケアに生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴やこだわりを聞き取り、生活に馴染みやすいように努めている。記録、日誌を通じて報告、伝達を行ない、これまでの暮らしを把握している。居室内に、写真やなじみの物を飾っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録、業務日誌、申し送りなどで把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで支援の振返りを行ない、本人、家族の言葉、現状に対して生活の課題、目標、支援内容を話し合い、計画を作成している。	1階、2階ごとに、全職員によって3ヶ月ごとに見直しを行っている。それによって、以後の介護計画案を利用者、家族の希望も取り入れて作成し、素案を計画作成担当者がまとめて成案とし、全職員で確認し実践に移している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の行動、会話や変化を記録し、計画の見直しに活かしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 岩手高齢協ほっともとみや(1階ユニット)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じて、畑仕事、草取り、電話の利用を支援している。また紅葉ドライブには御所湖広域公園へ弁当を持って出かけ、帰りには松ぼっくりのアイスを食べた。日常的には食事形態の工夫、家事やレク活動、おやつ作りに利用者が関わられるように支援している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生の体験学習、近所の方による歌、踊り、絵本の読み聞かせ会など、交流の中で楽しい時間を共有している。地域の防災訓練に参加、訪問理美容、歯医者、内科も訪問診療を利用できる。近所に住んでいる方が、犬を連れて遊びに来てくれる。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前から利用しているかかりつけ医を継続して利用することができる。通院が困難になってきた時には、訪問診療の紹介、切り替えの支援をしている。かかりつけ医へ体調の報告を行ない、医療的な指示をもらったり、内服の検討をしてもらったりしている。	盛岡往診クリニックなど、全部で5医療機関から月2回の往診を受けている利用者が、1階、2階で各5名いる。外部のかかりつけ医での受診は8名で、その支援は、原則的に家族が行うことになっている。また、毎週訪問看護もある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の定期訪問があり、健康の変化について、報告や相談をしている。また24時間の電話相談が可能なので、急変時に指示をもらったり、訪問してもらったりしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、介護情報を病院へ提供している。また入院中は相談員と退院に向けて、情報交換している。本人とも面会を行ない、表情や言葉などを確認して、事業所へ持ち帰り、退院の検討を行なっている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の会話、家族からの聞き取りにより、どこで終末期を過ごされるのか話し合いをしている。入所時、体調不安な時、かかりつけ医の変更があった時に、看取りの確認が行われている。看取りは訪問看護、訪問診療と連携してチームで支援している。	重度化、終末期に向けた指針を持っており、この1年間において、1階で2人の利用者を看取っている。家族の同意を得つつ、その利用者に合わせてケアに努めることを職員間で共有し、場合によっては夜勤者を増やすなど、対応のあり方を工夫しながら最期まで支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練で心肺蘇生法、応急手当の訓練を受けている。事業所で救命救急の訓練を開催している。急変があり、心臓マッサージを実施、AEDも発動した。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ハザードマップを掲示している。避難訓練は火災、地震と水害で訓練をした。運営推進会議でも水害について話し合い、事業所周辺の地形や、土地の高さについて、地域の方々に教えていただいた。	防火管理者は所長で、ホームとしては年2回実施し、それに本四町内会(町内防災隊)の年2回の総合避難訓練に参加している。特に町内の訓練には利用者も参加し、地域住民との交流の場にもなっている。町内の訓練状況の写真がホーム内に掲示していることを実見でき、臨場感があった。備蓄もある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に応じた話し方、接し方を心掛けている。人生の大先輩として敬意をもち対応するようにしている。配慮や尊重について職員同士で、提案しよりよい対応を目指している。	一人ひとりの利用者に寄り添い信頼関係を築きつつ、羞恥心を持たせないような接し方に努めている。話し合いの過程の中で、個性の理解に差があり、先輩に対する尊敬を持つことが大切と考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が決めることができるような声掛けをしている。表情や仕草で汲み取れるように心がけている。起きる時、眠りたい時など本人の希望に添っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の希望に合わせた生活を送れるように、起床、入床の時間を選択できたり、食事内容の好き嫌いに合わせて代替え品を提供している。気分や表情をみながら、タイミングを見ながら本人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好みの服を着られるように、自分で服を取る事ができない利用者には選択してもらうように支援している。化粧、腕時計をしている利用者もあり、利用者の好むおしゃれをすることができる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューや料理を作る時に利用者から意見を取り入れている。利用者と一緒に食事作り、配膳や下膳、食器片づけを行なっている。またおやつ作りとして、饅頭、きりせんしょ、ホットケーキ、くずもちなどを利用者も一緒に作った。	1階、2階のメニューは全て同じとは限らない。利用者の希望をもとに職員がメニューを考えており、また、その利用者の体調に合わせた調理の工夫もしている。食事は、利用者と職員一緒に食べており、調理や配膳、下膳などできる利用者は行っている。季節的なおやつづくりや、敬老会や忘年会などの行事には、外注弁当なども食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を記録している。嚥下力の低下により、飲みが困難な方はトロミを使用している。飲み込み、嚥む力に合わせて、食材の硬さを工夫している。お粥、刻み、ミキサーなど。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 岩手高齢協ほっともとみや(1階ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア、義歯洗浄を行なっている。年1回の定期検診もすすめ、治療が必要な方は、訪問歯科診療をすすめている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	体調、体力に合わせてトイレを使用している。なるべくトイレで排尿、排便の促しをしている。おむつ、パッドは本人に合ったサイズ、形のものを利用できるように日々、検討している。	排泄は、原則的にトイレを使用することで支援に取り組んでおり、2階の1人を除き、支援を受けつつトイレを使用している。職員は利用者の行動を観察しながら、さりげなく誘導し、トイレで用を済ませることで、利用者の自信と満足感に結びつけるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、ヨーグルトの提供を毎日行い、排便が促されるように、支援している。排便チェックもしている。毎日、音楽に合わせて、歩行運動とラジオ体操を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は決まっているが、その中で本人の希望がある方は入る順番など選んでいただいている。基本の入浴時間は午後だが、トイレに間に合わなかったなどの理由で午前に入浴の対応をすることもある。	日曜日も含め、毎日入浴できるようにしている。入浴は、午後1時30分から3時30分ごろまでで、週2～3回くらい入浴している。入浴には、日勤の職員が支援している。着がえの衣類は、利用者の選択を主体にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調、生活習慣に合わせている。日中、疲れている様子があれば、休息を促し、夜に見たいテレビがある方はテレビを見て過ごすことができる。眠りたい時に眠り、起きたい時に起きている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師が薬のセット、一包化にしてくれている。介護職員が服薬を支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合わせた行事、ドライブ、美術品の作成と作品展への出展(2か所)、塗り絵、干し柿、おやつ作り、個人的にコーヒーを提供している方もいる。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 岩手高齢協ほっともとみや(1階ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と一緒に外出(温泉)したり、事業所では足湯、渋民イオンの産直へ買い物に行ったり、花見、紅葉狩りに出かけている。外出に備えて、歩行運動を毎日行っている。	花見や産直、最近では、盛岡市老人作品展に出展し、市総合福祉センターに見に行っている。日常的には、ウッドデッキでのお茶飲みで外気にふれる程度で、外での散歩となると十分とは言えないので、今後は外出支援のあり方の工夫に努めていきたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお金の管理をしたい方がいない。物品がそろう事を希望される方には、家族へ依頼したり、買い物の代行を行ない支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に電話の希望があり対応している。本人宛の荷物が届いた時にお礼の電話を掛けられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りつけをしたり、場所や時間に合わせた明るさやテレビは音量の調節をしている。利用者の製作作品をリビングに飾っている。	季節的なものとして、ひな人形が飾られていた。掲示された草花や風景写真、利用者の作品「ロールピクチャー」も、心和ませるものである。利用者の体調管理のため、温度や湿度の調整に心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置して居場所作りをしている。その時々で思い思いの場所でくつろぎ、安心できる場所で過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具などは本人と家族で用意してもらっている。馴染みの寝具、家族の写真、仏壇やテレビなど。	家族と利用者が、それぞれの思いを込めた居室づくりをしており、思い出の家具、写真、人によっては「位牌」などを持ち込んでいる。ホーム側としては、物の配置で負傷などが生じないような配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒の心配がある方は、居室内を整理し転倒しないように配慮している。フロア内はバリアフリーになっており、手すりの設置、階段もエレベーターも利用できる。各ドアは戸が軽いので扱いが良い、トイレは自動照明になっている。		